

味の素株式会社
2014年3月期業績予想と今後の展望

2013年11月8日

取締役社長 最高経営責任者
伊藤 雅俊

目 次

I. 2014年3月期 予想概況

2014年3月期 業績予想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2

2014年3月期 予想営業利益の増減要因・・・・・・・・・・・・・・・・ P3

2014年3月期 予想営業利益の内訳・・・・・・・・・・・・・・・・ P4

セグメント別業績予想概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P5

2014年3月期 経常利益、純利益予想・・・・・・・・・・・・・・・・ P6

確かなグローバルカンパニーに向けたロードマップ・・・・・・・・ P7

II. 確かなグローバルカンパニーに向けた2014年3月期重点施策

～成長ドライバーの育成～・・・・・・・・・・・・・・・・ P8-13

III. 確かなグローバルカンパニーに向けた2014年3月期重点施策

～事業構造強化～・・・・・・・・・・・・・・・・ P14-16

IV. 2014年3月期 財務戦略

P17

V. 動物栄養事業 FY2013市場環境と今後の取組み.....

P18-20

VI. 医薬事業 経営課題への取組み状況について.....

P21-23

参考資料

別添 2014年3月期セグメント別業績予想

I . 2014年3月期 予想概況

2014年3月期 業績予想

売上高：飼料用アミノ酸の単価下落あるも、為替影響、高付加価値型事業の拡大で上方修正。
営業利益：為替影響によるプラスあるも、飼料用アミノ酸の採算性低下で下方修正。

※売上高は新基準	FY2013 修正予想	FY2013 期首予想	修正額	FY2012 実績
売上高(億円)	10,320	10,190	130	9,850
営業利益(億円)	680	750	▲ 70	712
当期純利益(億円)	480	490	▲ 10	484
一株あたり純利益(円)	77.93	79.52	▲ 1.59	74.35

■ 売上高 (期首予想からの増減)

＋：海外食品での為替影響

医薬用・食品用アミノ酸、製薬カスタムサービスの拡大

▲：飼料用アミノ酸の販売単価下落、医薬の提携販売品苦戦

■ 営業利益

＋：海外食品での為替影響

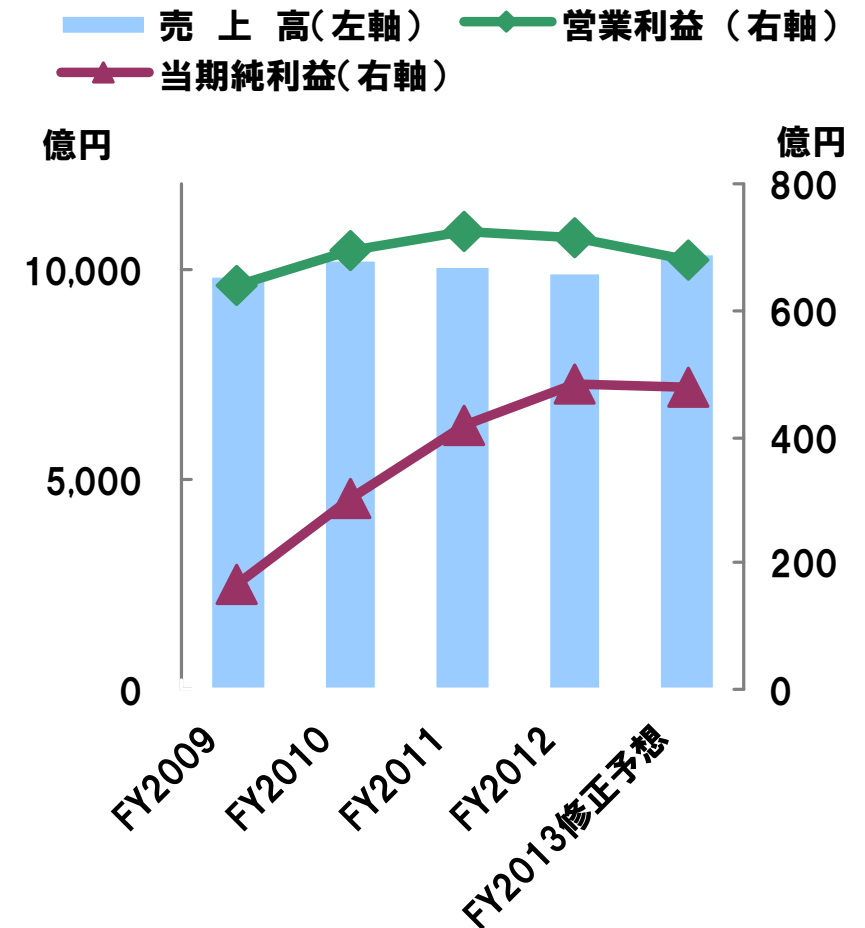
医薬用・食品用アミノ酸、化成品での採算性向上

▲：飼料用アミノ酸の販売価格下落

■ 当期純利益

＋：特別利益増 (遊休固定資産売却による資産効率化等)

▲：営業利益減



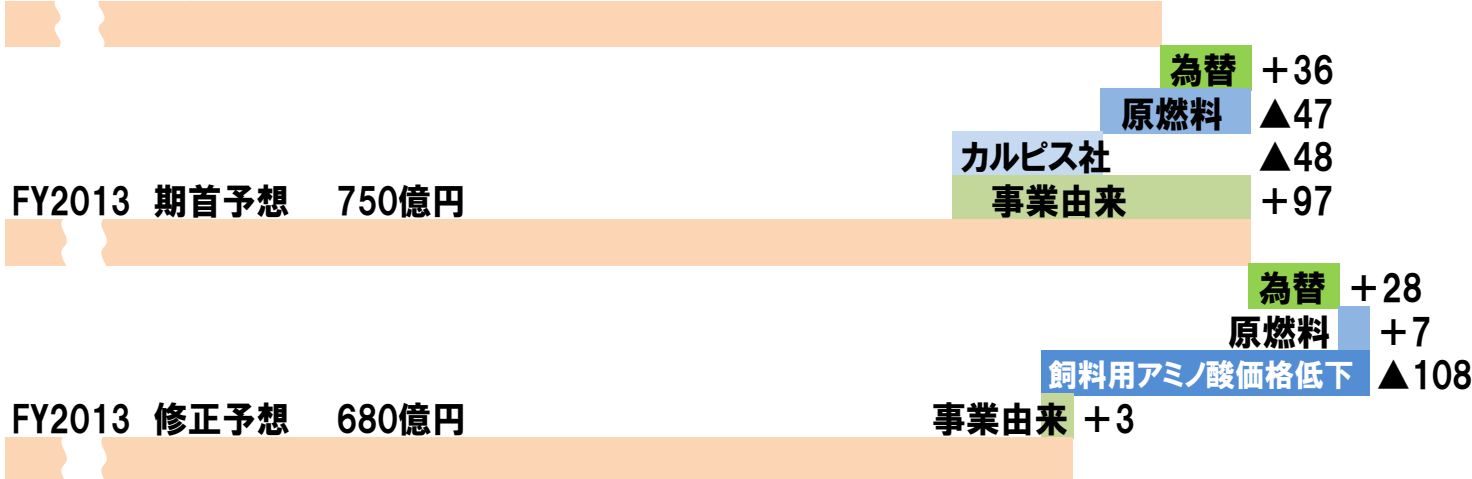
※売上高は新基準

2014年3月期 予想営業利益の増減要因

為替影響メリットの拡大、発酵原燃料の価格安定も
飼料用アミノ酸の販売単価下落影響が大きく、対前年減益に修正。

営業利益の増減要因 (億円)

FY2012 実績 712億円



為替影響 (億円)

換算	期首予想	+46
	修正予想	+64
貿易	期首予想	▲10
	修正予想	+0
合計	期首予想	+36
	修正予想	+64

※事業由来

数量増、販売単価変動、
コスト削減等

為替前提 (対円)

	FY2013 修正予想	FY2013 期首予想	1H-FY2013 実績	FY2012 実績
USD	98.0	90.0	98.86	82.91
EUR	131.0	118.0	129.98	106.78
THB	3.1	3.0	3.23	2.70
BRL	44.0	45.0	45.34	41.19

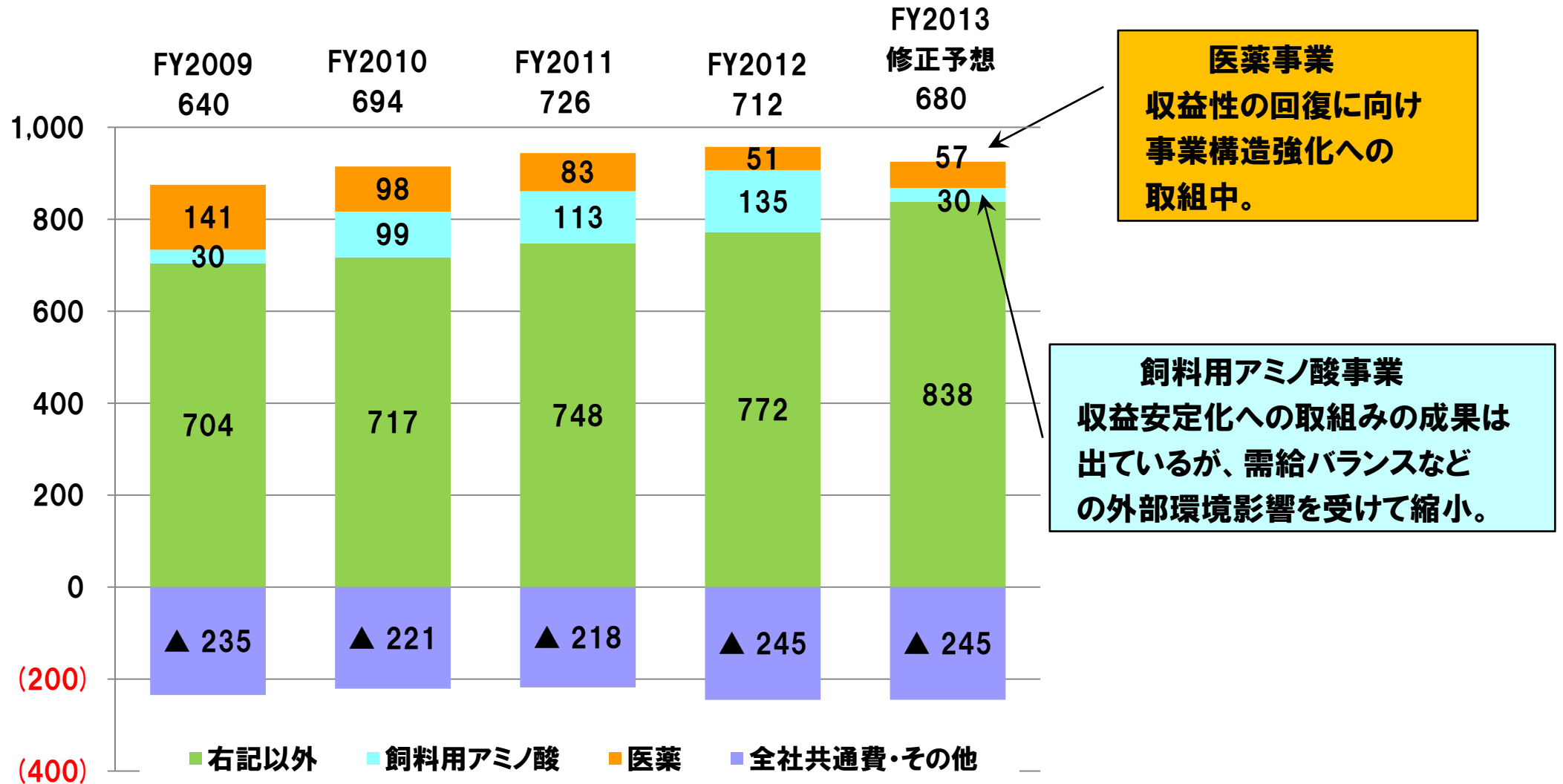
原燃料価格変動影響概算

(対前年。▲=コストアップ。単位:億円)

	FY2013 修正予想	FY2013 期首予想	1H-FY2013 実績
発酵主原料	0	17	▲11
発酵副原料	0	▲24	2
発酵エネルギー	0	▲23	▲1
国内食品原材料	▲40	▲17	▲22
原燃料合計	▲40	▲47	▲32

2014年3月期 予想営業利益の内訳

年度別/事業別営業利益（全社共通費配賦前） 単位：億円



セグメント別業績予想概要

(単位: 億円)

	2014年3月期 予想 (A)	営業 利益率	2014年3月期 予想(修正前)	営業 利益率	修正額	2013年3月期 実績 (B)	営業 利益率	対前年増減額(率)	
								(A)-(B)	(A)/(B)
売上高	10,320		10,190		130	9,850		470	5%
国内食品	3,405		3,385		20	3,916		▲ 511	▲ 13%
海外食品	3,172		3,039		133	2,454		718	29%
バイオ・ファイン	2,383		2,328		55	2,042		341	17%
医薬	518		529		▲ 11	715		▲ 197	▲ 28%
その他	842		909		▲ 67	724		118	16%
営業利益	680	6.6%	750	7.4%	▲ 70	712	7.2%	▲ 32	▲ 5%
国内食品	276	8.1%	283	8.4%	▲ 7	326	8.3%	▲ 50	▲ 15%
海外食品	263	8.3%	231	7.6%	32	207	8.4%	56	27%
バイオ・ファイン	94	3.9%	192	8.2%	▲ 98	144	7.0%	▲ 50	▲ 35%
医薬	43	8.3%	43	8.1%	0	32	4.5%	11	35%
その他	4	0.5%	1	-	3	3	0.4%	1	23%
経常利益	740		790		▲ 50	772		▲ 32	▲ 4%
当期利益	480		490		▲ 10	484		▲ 4	▲ 1%
為替レート	円/USD 円/ユーロ	98.0 131.0	90.0 118.0			82.91 106.78			

【参考】

(単位: 億円)

	2014年3月期 予想 (A)	営業 利益率	2014年3月期 予想(修正前)	営業 利益率	増減額	2013年3月期 実績 (B)	営業 利益率	対前年増減額(率)	
								(A)-(B)	(A)/(B)
売上高									
飼料用アミノ酸	997		1,085		▲ 89	941		56	6%
飼料用アミノ酸以外	9,323		9,105		219	8,909		414	5%
営業利益									
飼料用アミノ酸	30	3.0%	138	12.7%	▲ 108	135	14.3%	▲ 105	▲ 78%
飼料用アミノ酸以外	650	7.0%	612	6.7%	38	577	6.5%	73	13%

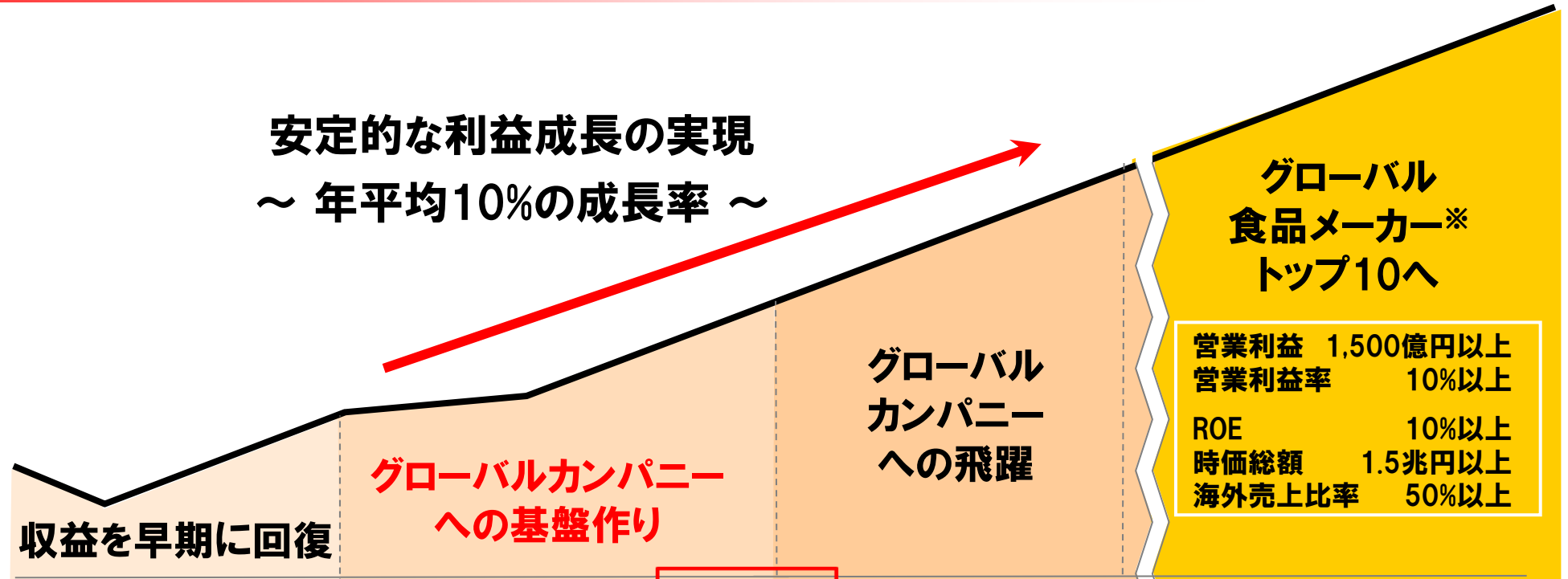
2014年3月期 経常利益、純利益予想

営業外損益：持分法投資損益の改善等で20億円の上方修正。
特別損益：遊休固定資産売却、関係会社の清算等で20億円の上方修正。
当期純利益：税率低下（過年度戻入等）もあり、純利益は10億円の下方修正。

(億円。+が益。)	FY2013 修正予想	FY2013 期首予想	修正額	主要内容、修正理由
売上高	10,320	10,190	130	
営業利益	680	750	▲ 70	
営業外収支(▲損)	60	40	20	
受取利息	16	14	2	
受取配当金	9	7	2	
持分法投資損益	44	39	5	
支払利息	▲ 23	▲ 21	▲ 2	
その他	14	2	12	
経常利益	740	790	▲ 50	
特別損益(▲損)	10	▲ 10	20	
関係会社株式売却益	23	0	23	第2四半期計上済み。
固定資産売却益	18	2	16	期首では「その他」に計上。
固定資産除却損	▲ 37	▲ 38	1	
その他	6	26	▲ 20	
税前利益	750	780	▲ 30	
当期純利益	480	490	▲ 10	税率 期首/27.1%、修正/25.7%。

「確かなグローバルカンパニー」に向けたロードマップ

安定的な利益成長の実現
～ 年平均10%の成長率 ～



	FY2010 実績	FY2011 実績	FY2012 実績	FY2013 修正予想	FY2013 中期計画	FY2016
ROE	5.0%	6.9%	7.8%	～8.0%	8%	10%
営業利益率	6.8%	7.2%	7.2%	6.6%	～7%	8%
営業利益	694億円	726億円	712億円	680億円	870億円	1,000億円+α
海外利益比率	53%	51%	52%	53%	56%	—
海外売上高比率	37%	38%	41%	49%	—	—
1株当たり純利益	43.56円	61.28円	74.35円	77.93円	—	—

※飲料メーカー除く

※FY2013計画は旧基準。

II. 確かなグローバルカンパニーに向けた 2014年3月期 重点施策 ～成長ドライバーの育成～

- (1) グローバル成長**
- (2) R&Dのリーダーシップ**

(1) グローバル成長：海外コンシューマーフーズ事業拡大

～ 既存事業の深耕と新市場の拡大 生産能力増強 ～

ポイント	具体的施策	FY2011	FY2012	FY2013	
既存事業 深耕	主力商品 増産	うま味調味料	タイ (MSG) アユタヤ工場 ('13/3完工) 投資額 約170億円	タイ (核酸) 増産 ('11/11完工)	
			ナイジェリア アパパ工場増築 ('13/3完工)	コートジボワール ヨブゴン工場新設 ('13/3完工)	バングラデシュ トンギ工場 ('12/5稼働)
	風味調味料	タイ「Ros Dee」増産 ('11/6完工)	ブラジル「Sazon」増産 ('13/6完工) 投資額 約20億円	インドネシア カラワン「Masako」工場 ('12/9完工) 投資額 約35億円	ペルー カヤオ工場 新食品製造棟 ('12/4稼働)
		加工食品	ペルー カヤオ工場 即席麺「Aji-no-men」ライン増設 ('12/10完工)		
	缶コーヒー	タイ 「Birdy」増産 ('13/6完工) 投資額 約45億円			
	次世代 育成	メニュー用 調味料	インドネシア カラワン「SAORI」増産 ('14/6 第一期 完工) 投資額 約8.5億円	ベトナム ロンタン「Aji-Quick」ライン新設 ('14/4完工) 投資額 約5億円	

(1) グローバル成長：海外コンシューマーフーズ事業拡大

～ 既存事業の深耕と新市場の拡大 新製品発売 ～

ポイント	具体的施策	FY2011	FY2012	FY2013
既存事業 深耕	次世代 中核商品 育成	<p>メニュー用調味料</p> <p>タイ「Ros Dee Menu」('11/11)</p> <p>インド「Hapima」カレー用スパイスブレンド調味料 ('11/4)</p>	<p>ベトナム「Aji-ngon」ベジタリアン ('12/8) 「Aji-Quick」鍋用2品種、 スープ用2品種 ('12/8)</p> <p>タイ「Ros Dee Menu」 計6品種追加 ('12/10、'13/2)</p> <p>インドネシア「Mayumi」 ('12/5)</p> <p>ベトナム「Phu Si」(醤油) ('12/5) 「Aji-Mayo」 mild sweet ('12/8)</p> <p>メキシコ「AJI-SAZON (外食用)」 ('12/10)</p> <p>ペルー「Aji-no-mix」(から揚げ粉) ('13/1)</p>	<p>フィリピン「Crispy fry」(から揚げ粉) ('13/4)</p>  <p>ブラジル「Satis」(醤油) ('13/7)</p>  <p>タイ「Ros Dee Menu」計2品種追加 ('13/10)</p> 
	加工食品		<p>タイ「Yum Yum Jumbo」 ('12/8) 「Jok Tem Kam」2品種 (袋入りインスタントお粥) ('13/2)</p> <p>ブラジル「Caseirinho」(マッシュポテト) (家庭用) ('12/9)</p> <p>ペルー「Aji-no-men」Pasta Rapida 3品種 ('12/5)</p> <p>タイ「Birdy」Pri-mo (ペットボトルタイプコーヒー) ('13/1)</p> <p>ブラジル「Yakissoba」(外食用) ('12/6)</p>	<p>タイ「Birdy」Primo (ペットボトルコーヒー) ('13/4)</p>  <p>タイ「Jok Tem Kam」2品種 (カップ入りインスタントおかゆ) ('13/7)</p>  <p>ブラジル「VONO」Turma da Monica 3品種 (スープ) ('13/6)</p>  <p>ポーランド「OYAKATA」UMAMI NOODLES (即席麺) ('13/10)</p> 

(1) グローバル成長：海外コンシューマーフーズ事業拡大 ～ 既存事業の深耕と新市場の拡大 ～

ポイント	具体的施策		FY2011	FY2012	FY2013
新市場 拡大	新拠点 設立	アジア	バングラデシュ法人 ('11/8: 設立)	ミャンマー: 事業再開検討 パキスタン: 参入機会検討	
		中近東 アフリカ	トルコ法人 ('11/ 7: 設立) エジプト法人 ('11/10: 設立) コートジボワール法人 ('12/1: 設立)	北アフリカ: 参入機会検討 ケニア: WASCOS社支店 ('13/9 設立) カメルーン: WASCOS社支店 ('13/9 設立)	
事業基盤 整備	体制強化		欧州食品事業統合 ('11/7)	和・アジアエスニック外食市場で販売力強化 北米コンシューマー事業統合 ('13/4)	

既存国と新市場の売上高構成

主要国のFY2013上期売上高前年比 (円貨ベース) タイ 128% / ブラジル 126% / インドネシア 121%
FY2013上期売上高前年比 (現地通貨ベース) タイ 101% / ブラジル 111% / インドネシア 105%

売上高概算 (億円)	FY2011 実績	FY2012 実績	FY2013 予想(対前年)	1HFY2013 実績(対前年)	FY2013 計画	2011-2013 平均成長率	FY2016 (イメージ)
既存国	1,670	1,825	2,420(+33%)	1,100(+31%)	2,100	+10%	2,500
新市場	170	170	230(+35%)	100(+11%)	300	+26%	500
合計	1,840	1,995	2,650(+33%)	1,200(+29%)	2,400	+11%	3,000

(1) グローバル成長:加速に向けたチャレンジ ～ 打ち手の方向性 ～

1. 飛躍的事業規模拡大(トップラインの成長)の実現

- ・ 対象国:タイ、ブラジル、インドネシア、ベトナム、フィリピン
の5カ国(仮称:Five Stars)
- ・ 目 標:2020年までに、対象エリアの売上2～3倍レベル(2012年度実績ベース)
- ・ 体 制:実現に向けたプロジェクトを発足(2013年9月)
アクションプランは、14-16中計で発表予定

2. 非連続成長の実現

- ・ **従来の**調味料に拘らない、より広い食品領域での事業展開
- ・ オープンイノベーション、業務・技術提携、M&Aの積極的活用

3. 新地域、新たなチャネルの拡大

- ・ 新地域への継続拡大
- ・ 外食デリカチャネルをさらに拡大・強化

(1) グローバル成長：非連続成長の実現

～ トルコの食品会社「キュクレ社」株式50%取得 ～

トルコで認知されている高品質ブランド、強力な営業力を持つ現地パートナーと提携。
新事業領域の拡大を図り、トルコ市場での事業展開を加速する。

1. 提携内容

キュクレ社（本社・トルコ）の株式の50%を取得。

資本構成：味の素社50% キュクレ社50%。

取得額 60百万トルコ・リラ（約29億円）

持分法非適用関連会社とする。

2. 資本提携開始時期

2013年12月中旬頃

3. キュクレ社の強み

調味料（食酢・果実ソース）、ピクルスを製造・販売。

当地で100年続く、高品質プレミアムブランドとしてトルコ市場に広く浸透、
トルコ全土をカバーする営業力を有する。

4. 期待するシナジー

同社をトルコにおける事業展開のコアと位置づけ。

当社のグローバル市場で培ってきたマーケティング力・商品開発力と

同社の有力なブランド力・強力な営業力を活かし、トルコでの事業拡大と
将来的に中東・中央アジア市場への更なる拡大を狙う。

5年後を目途に売上高50億円を目指す。



(2) R&Dのリーダーシップ:低資源利用発酵技術の進捗

具体的施策		FY2011	FY2012	FY2013	FY2014	
主原料 を削減する技術	MSG		ブラジルCPテスト ('13/4) 本格導入 ('13/7)	他地域展開 (FY14以降)	→	
	MSG		米国導入 ('12/6)	アセアン導入 (FY13/Q3)	→	
副原料・ エネルギー を削減する技術	飼料用リジン	ブラジル 本格導入		米国導入 (FY13/Q2)	タイ導入 (FY14/Q4)	→
				欧州導入 (FY13/Q4)		→
	飼料用トリプトファン			欧州導入 ('12/8)		→
	アスパルテーム			日本導入 ('12/8)		→
非可食原料利用	飼料用リジン	ブラジル導入 ('12/1)			タイCPテスト開始 (FY14以降)	→
					北米導入	→
主原料・エネルギー (部分) 自製化	MSG	タイ大型試験設備 ('12/1)			タイCP設備導入 (FY14)	→
	MSG		ブラジル導入 ('12/4)			→
利益貢献計画 (対 FY2010)		(実績) ー 億円	(実績) 15億円	(計画) 50億円	(計画) 75億円	

赤字:2013年5月以降の実施・決定、繰り延べ事項

III. 確かなグローバルカンパニーに向けた 2014年3月期 重点施策 ～ 事業構造強化 ～

- (1) 国内食品事業
- (2) 動物栄養事業

(1) 国内食品事業：主要製品の事業構造強化

～ 価格改定の実施 ～

コストダウン努力を超えた原材料高、円安進展によるコストアップに対し価格改定、製品容量改定を実施

	対象	実施時期	背景	値上げ率
マヨネーズ	家庭用主要製品、業務用	2013/8月	円安に伴う油価上昇	3-9%
冷凍食品	主に家庭用・業務用の海外生産品	2013/8月	円安の進展による調達コスト上昇 タイ、中国における最低賃金上昇	家庭用/8-17% 業務用/10-15%
「ほんだし®」	家庭用	2014/1月	原材料(鰹、包材等)の高騰 円安の進展	6-7%

※冷凍食品(家庭用)、「ほんだし®」(家庭用)の一部品種では容量改定を実施。

冷凍食品：容量及び価格改定/ 2品種

「ほんだし®」: 容量改定/ 3品種、容量及び価格改定/ 2品種

⇒ 容量改定で値ごろ感を維持し、販促機会の維持を図る。

マヨネーズ、冷凍食品の値上げ後のレビュー：出荷水準は想定範囲内。

(背景) 円安による調達コストアップが食品含む広範な製品に影響。

食品業界でも値上げ対応が続いており、消費者の理解が得られている。

(1) 国内食品事業

～ 消費税率引き上げ(2014年4月)に伴う対応策 ～

想定される影響

増税前での若干の駆け込み需要は想定されるが、4月以降への影響は限定的。
増税後は節約意識の高まりによる消費行動の変化も想定されるが、
家庭用、外食用、加工用とも需要喚起施策により影響を最小限に抑えていく。

対応方針

増税後も消費者が生活の豊かさを実感できるよう、お得意先と協働して需要喚起策を強化する。

家庭用：新製品等による製品ラインの拡充と新しい価値提案で需要喚起を図る。

外食用・加工用：ユーザーのコストダウンにつながる調味料、機能型食品ニーズの拡大に対応し、出来上がり単価を抑えたメニューを提案する。

(2) 動物栄養事業：構造強化に向けた取組み

～ 味の素グループの強みを多角的に投入、総合戦略で事業価値を維持・向上 ～

ポイント	具体的な施策		FY2011	FY2012	FY2013
コスト競争力の強化	ブラジルを核とするグローバル供給から世界4極地域供給へ	新技術導入による地域供給力強化	米国 タイ フランス		
	低資源発酵技術による抜本的な製造プロセス改良	副原料の使用量低減 ブラジルから他工場へ展開		フランスTrp (FY12/Q2)	米国('13/9) Lys (FY13/Q4) タイ導入 (FY14以降)
		主原料の多様化 フランスから他工場へ展開	ブラジル('12/1)		タイCPテスト開始 (FY14以降)
付加価値の増加	新たな高付加価値飼料添加物の開発	バリン・イソロイシン	バリンを優先して市場開拓、販売に注力 イソロイシン市場開拓		
	飼料用アミノ酸の新たな用途開発	乳牛用リジン (AjiPro®-L)	北米にてテスト販売開始('11/4)	生産倍増('13/5)	生産能力増強 本格展開 (FY14/Q3)
		水産養殖向けアミノ酸等			導入検討
強力な事業運営体制の構築	飼料用アミノ酸事業を含む動物栄養事業の100%子会社の設立		100%子会社の設立('11/9) 日本の事業(統括機能等)とフランス、米国の飼料用アミノ酸事業の吸収分割('11/11)		シンガポールにアジア・パシフィック地域の事業統括販売会社設立('13/4)
	生産の一部外部委託 (実施: スレオニン、阜豊集団、'11/3～)			OEM等の拡大	

IV. 2014年3月期 財務戦略

2014年3月期 財務戦略

「成長ドライバーの育成」、「事業構造強化」を推進し、キャッシュフロー創出力を強化。
FCFは成長投資を最優先としつつ、安定的かつ継続的な株主還元を行う。

●利益成長に基づくキャッシュ創出

➢ 営業CF: FY2011-FY2013の3年間で3,000億円の計画を継続。

●成長戦略への投資

➢ 設備投資: FY2011-FY2013の3年間で1,800億円にシーリング。

FY2012実績: 設備投資/616億円

FY2013予想: 設備投資/560億円 (期首からの変更なし)

➢ 当社コア領域での非連続成長投資の機会を狙う。

●株主還元方針

中長期的経営視点から各期の連結業績を勘案し、
安定的、継続的な利益配分を行う。

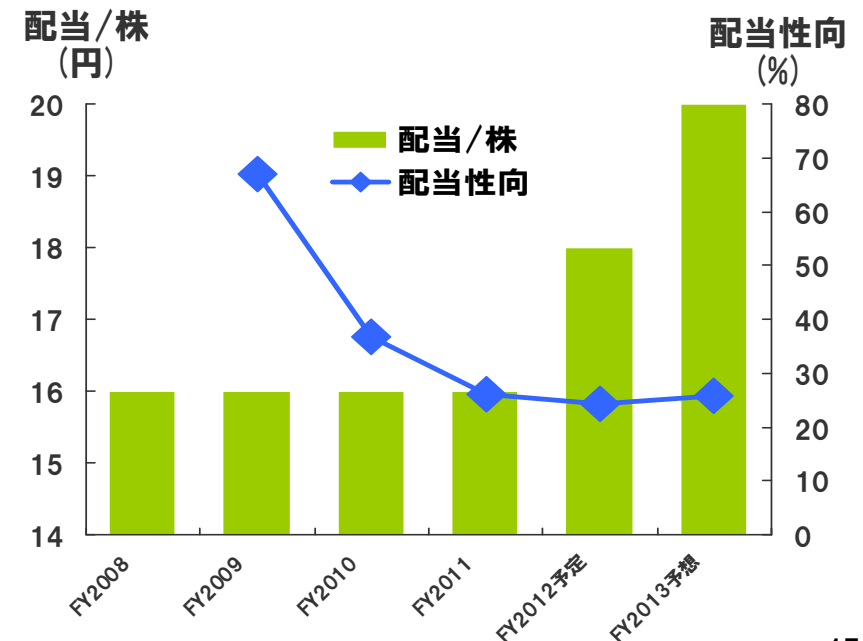
➢ 配当 (期首からの変更なし)

FY2012 1株あたり18円/年 <2円増配>

FY2013予想 1株あたり20円/年 <2円増配>

➢ 自己株式取得

5月～7月で約21百万株を実施、9月に消却済み。



V. 動物栄養事業

FY2013市場環境と今後の取組み

2013年11月8日

**取締役 常務執行役員
福士 博司**

市場環境

穀物環境とスプレッド

- ・高スプレッドにより、リジン、スレオニン、トリプトファン共に需要が堅調に伸びている。

	FY2012	FY2013 (予)
スプレッド (USD/st)	190	240
対前年		
市場伸長率 (%)		
リジン	115%	110%
スレオニン	122%	115%
トリプトファン	150%	144%

FY13上期レビュー

- ・リジン、スレオニン市場は各社増産・供給過剰により価格軟化。
- ・トリプトファン市場はCJの増産・積極攻勢により価格が弱含む。

今後の見通し

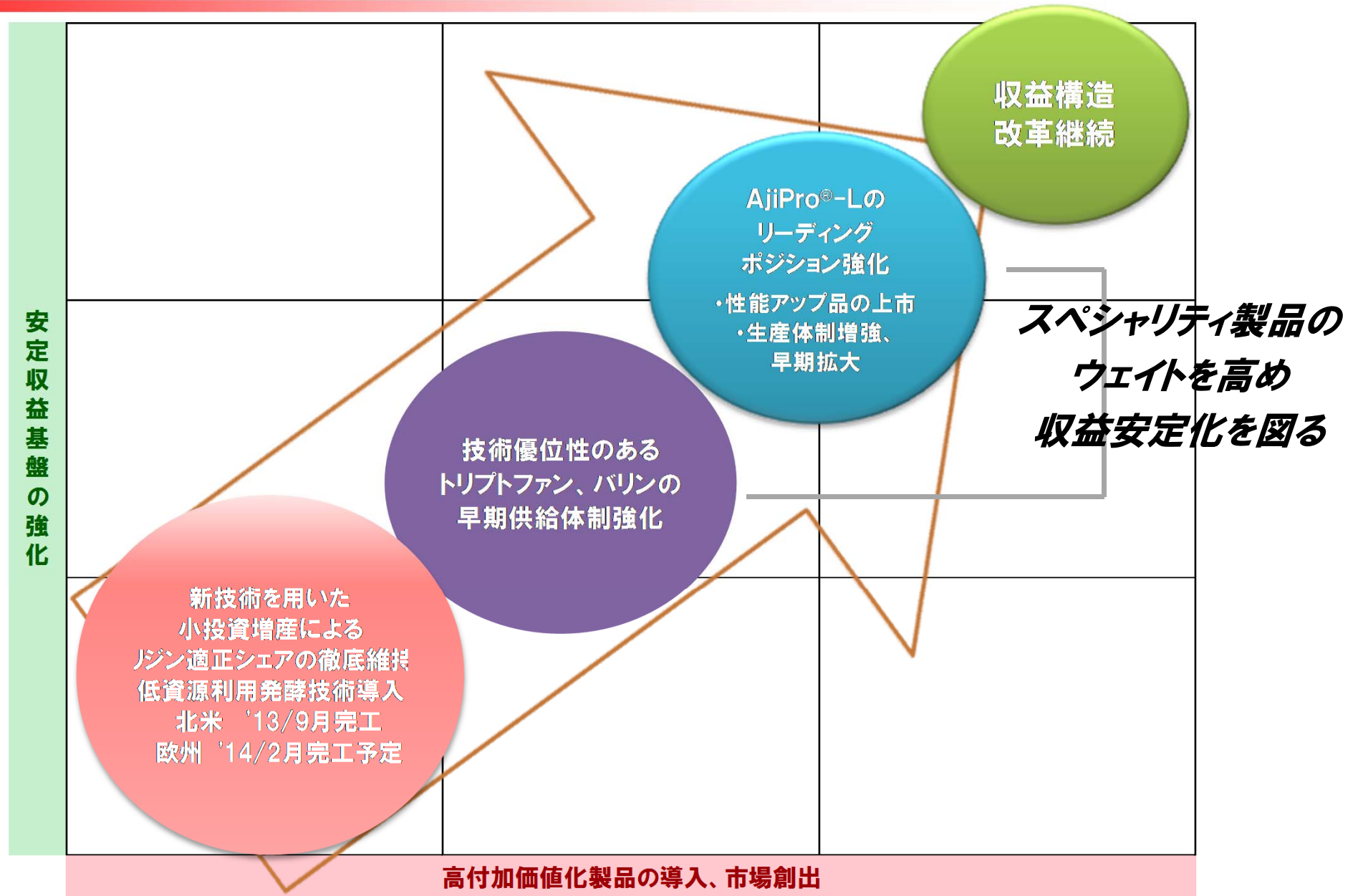
- ・リジン、スレオニン市場は生産調整効果による需給改善を予想、価格の最適化に向け取り組む。
- ・トリプトファン市場はTSによる需要掘り起こしに加え高スプレッドによる更なる需要拡大を予想する中、値戻しを図る。

商品別単価予想

単位: USD/kg CIF

	上期	下期
リジン	1.70	1.60
スレオニン	2.15	2.00
トリプトファン	15	15

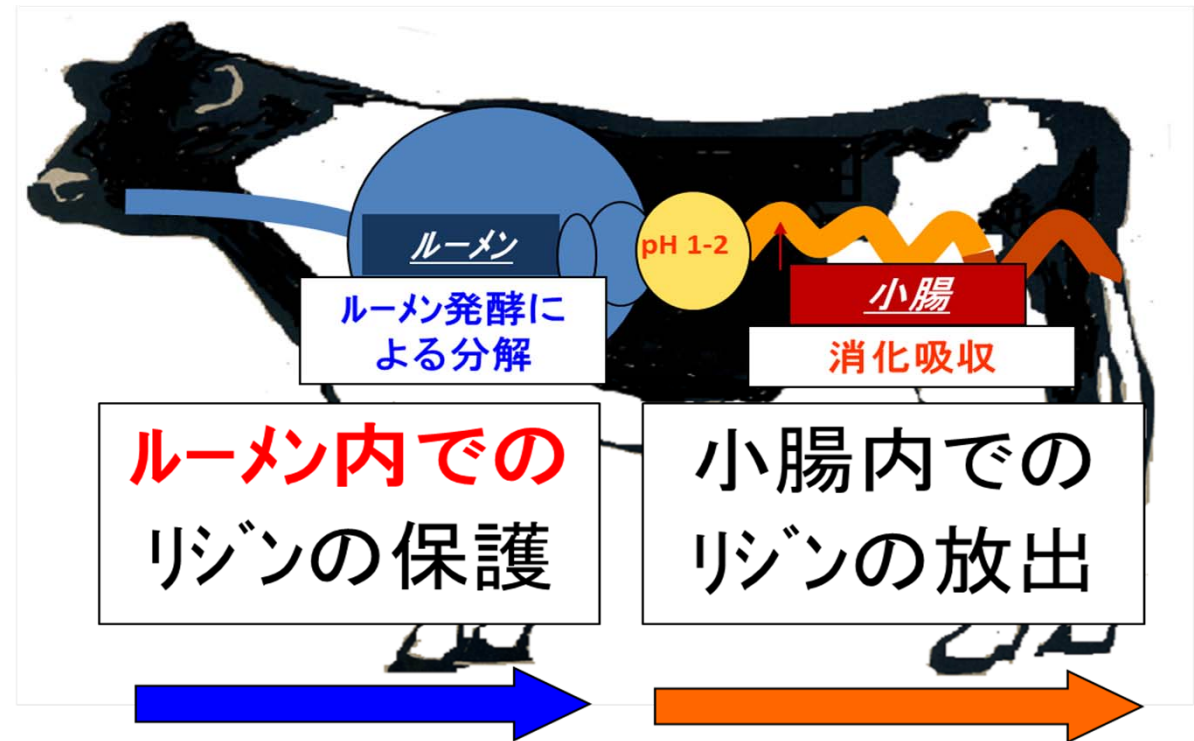
収益構造強化の取組み



AjiPro®-L

乳牛におけるリジン、製法

- 乳牛に、鶏・豚用のリジンを利用するとルーメンで分解されてしまう
- 独自製造技術によりリジン製剤化に成功、乳牛でもリジン利用可能にした。



※ルーメン: 第1番目の胃

製品効果・評価

AjiPro®-L 100g投与
(一頭当たり) によるメリット

乳量増加	50kg/日 → 52kg/日
乳蛋白含量増	2.8% → 2.85%
乳脂肪含量増	3.2% → 3.28%

- 乳生産量の増加、乳の品質向上に寄与
- 飼料コスト低減に寄与
- 顧客より高い評価を獲得、北米でさらに市場を創出する

VIII. 医薬事業

経営課題への取組み状況について

2013年11月8日

**味の素製薬株式会社
取締役社長 長町 隆**

医薬事業の経営課題と取組み状況

1. 経営課題と解決への取組み

- 1) 輸液、透析事業の構造強化: エイワイファーマ(株)設立による(株)陽進堂との合併事業は順調にスタート
- 2) パイプラインの充実: 潰瘍性大腸炎治療薬AJM300のPOC※獲得、積極的な外部連携および導入促進
- 3) オペレーション効率(販売費・一般管理費)の改善: 業務改革による抜本的なコストダウンに着手

POC※ (Proof Of Concept) : 早期臨床試験による薬効の検証

(目標: 対売上高販管費率 5%改善)

2. FY2013 上半期業績

(単位: 億円)

	FY2013 1Q 実績	FY2013 2Q 実績	FY2013 上期 実績 (A)	FY2012 上期 実績 (B)	前年度との差 (A) - (B)
売上高	168	112	279	360	▲80
売上総利益	87	76	162	194	▲31
(売上総利益率)	51.5%	67.9%	58.1%	53.9%	
営業利益	4	11	15	18	▲3

売上高 : ▲80

- ・輸液、透析領域分離による減収 ▲49
- ・医療用食品移管による減収 ▲18
- ・提携販売事業の減収 ▲20
- ・新製品上市、既存自販品の拡大 +11

営業利益 : ▲3

- ・輸液、透析領域分離による影響
 - ・清水製薬のれん償却終了
 - ・ロイヤルティー収支改善
 - ・提携販売品の減収
 - ・医療用食品移管による減収等
- } +約18
} ▲約21

医薬事業の経営課題と取組み状況

3. パイプラインの充実

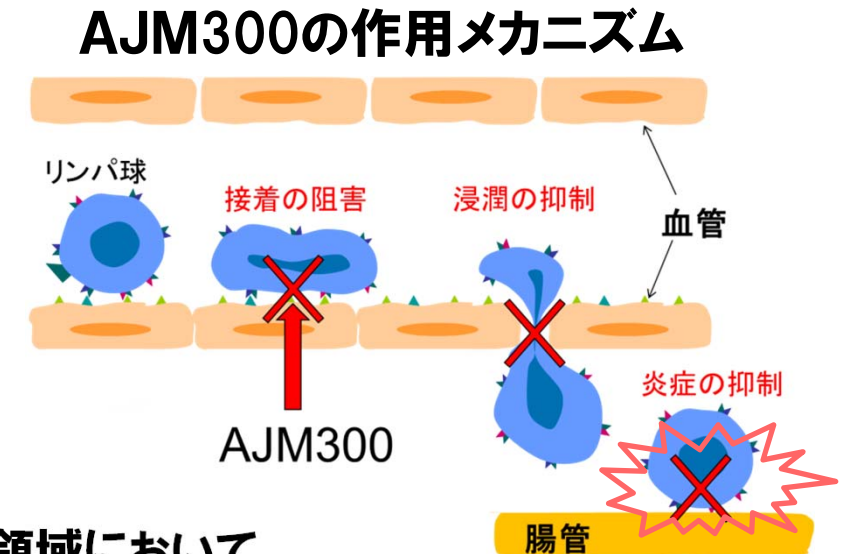
1) 潰瘍性大腸炎治療薬AJM300のPOC獲得

- 前期第2相臨床試験で プラセボ群に比較し、潰瘍性大腸炎に対する有意な治療効果（寛解導入効果）が認められた。

- AJM300はリンパ球の血管への接着を阻害することにより、炎症部位への浸潤を防ぐ薬剤であり、炎症性腸疾患（IBD）領域において、経口インテグリン※阻害剤として世界初のPOCを獲得した。

インテグリン※：細胞接着分子

- 低分子の経口剤であり、中等症の潰瘍性大腸炎治療薬として、注射剤である抗体医薬に対し、患者さんのQOL向上並びに医療費負担軽減への貢献が期待される。
- 国内での臨床試験を加速するとともに、海外では製薬企業への導出を行い、日本発のグローバル新薬創出を目指す（国内上市目標：2017年）。



医薬事業の経営課題と取組み状況

2) 「モビプレップ® 配合内服用剤」(2013年6月発売)

- 従来の腸管洗浄剤に比べ約半量かつ短時間で十分な腸管洗浄効果を発揮することにより、患者さんの服薬時の負荷を低減
- 大腸内視鏡検査の受診率向上を通じた大腸がんの早期発見・早期治療に対する貢献が期待される。
- 6-9月度の売上は 約2億円。2014年度売上30億円を目指す。

モビプレップ® 配合内服用剤



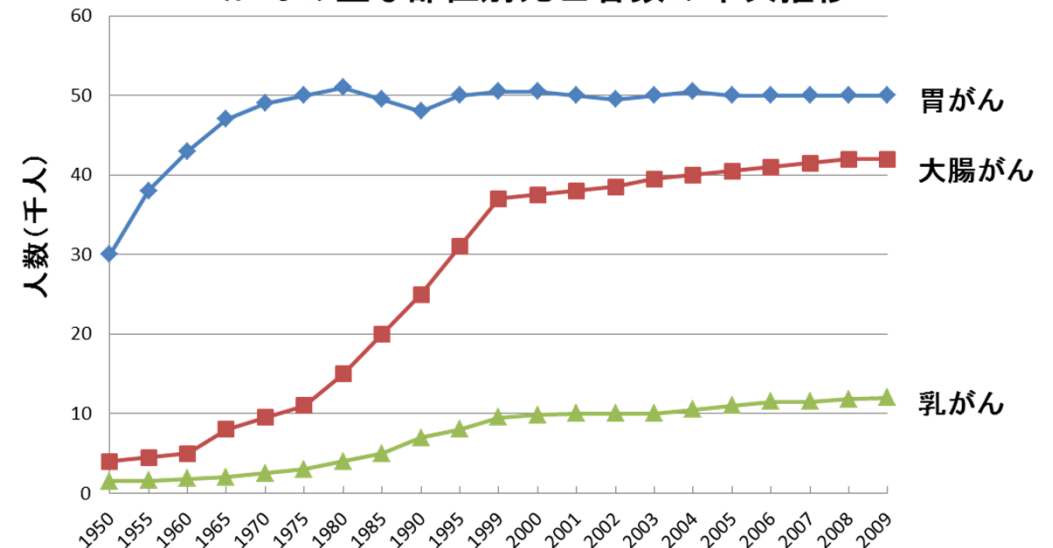
<大腸がん罹患率と死亡率(人口10万人あたり)>

	罹患率	死亡率
日本	31.5	11.8
米国	29.2	8.8
中国	14.2	6.9

※ 大腸がんによる死因 ⇒ 女性1位 男性3位
(出典:GLOBOCON 2008)

※ 平成24年「がん対策推進基本計画」(厚労省)
⇒ 大腸がん受診率を5年以内に40%へ
(平成22年 40歳以上の受診率 男性27%、女性 21%)

がんの主な部位別死亡者数の年次推移



出典:厚生労働省「H21年人口動態統計」

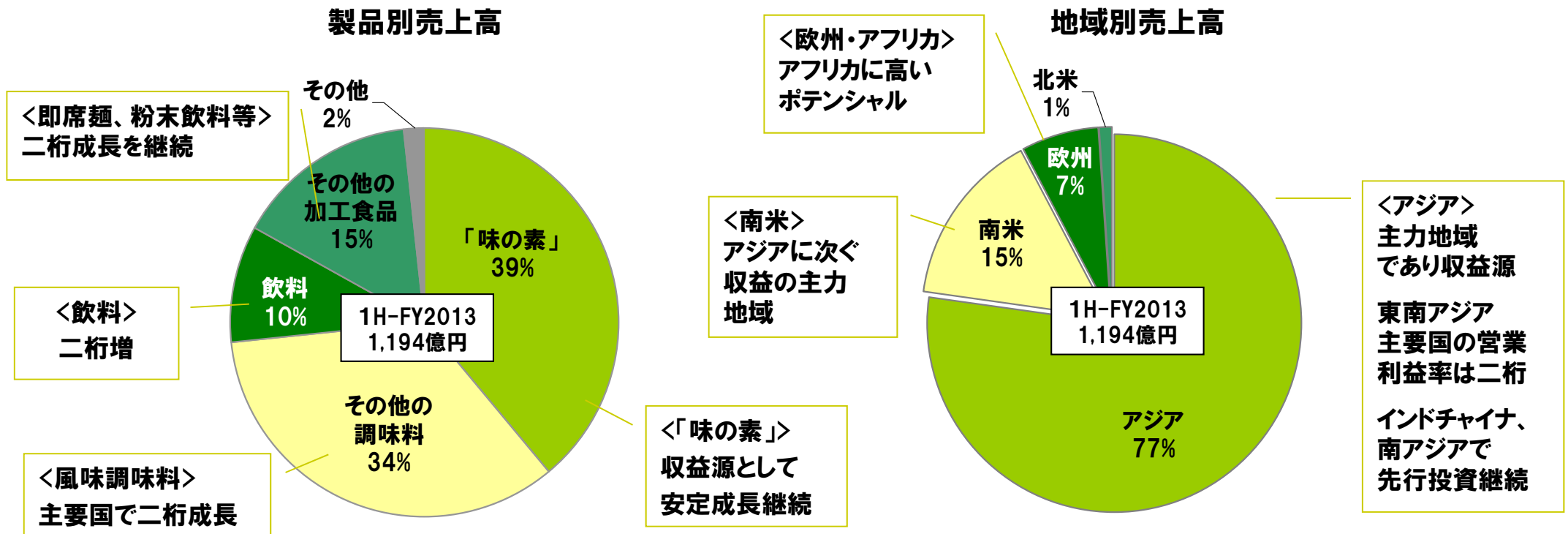
参考資料

海外コンシューマーフーズ販売動向

2014年3月期予想の前提条件等

飼料用リジン市場価格、CBOTスプレッド推移

【参考】1H-FY2013海外コンシューマーフーズ販売動向



【1H-FY2013 製品別概況】

- 「味の素」の販売数量は対前年約3%の安定成長。
- 主要国の風味調味料の販売数量は、ベトナム、インドネシアは二桁成長、タイ、ブラジルは順調に増加。
- 即席麺が順調に拡大。

【1H-FY2013 主要国の海外コンシューマーフーズ売上高】

- タイ 約154億THB (前年比101%、円ベース129%)
- ブラジル 約3.0億BRL (前年比110%、円ベース126%)
- インドネシア 約12,931億IDR (前年比107%、円ベース124%)
- ベトナム 約26,762億VND (前年比108%、円ベース134%)

【参考】2014年3月期予想の前提条件等

為替レート (対JPY)

	平均レート	営業利益への感度(換算時)
USD	98.0	±1円 →約0.5億円
EUR	131.0	±1円 →約0.5億円
THB	3.1	±0.01円 →0.5億円強
BRL	44.0	±1円 →2億円弱

飼料用アミノ酸

1) 推定市場規模 (千トン)

	FY2011	FY2012	FY2013予
リジン	1,700	1,950	2,150前後
スレオニン	270	330	380前後
トリプトファン	6	9	13前後

2) 当社グループ販売数量 (千トン)

	FY2011	FY2012	FY2013予
リジン	330	350	400前後
スレオニン	87	95	120前後
トリプトファン	2.5	4	4前後

3) 市場価格予想 (USD/kg, CIF)

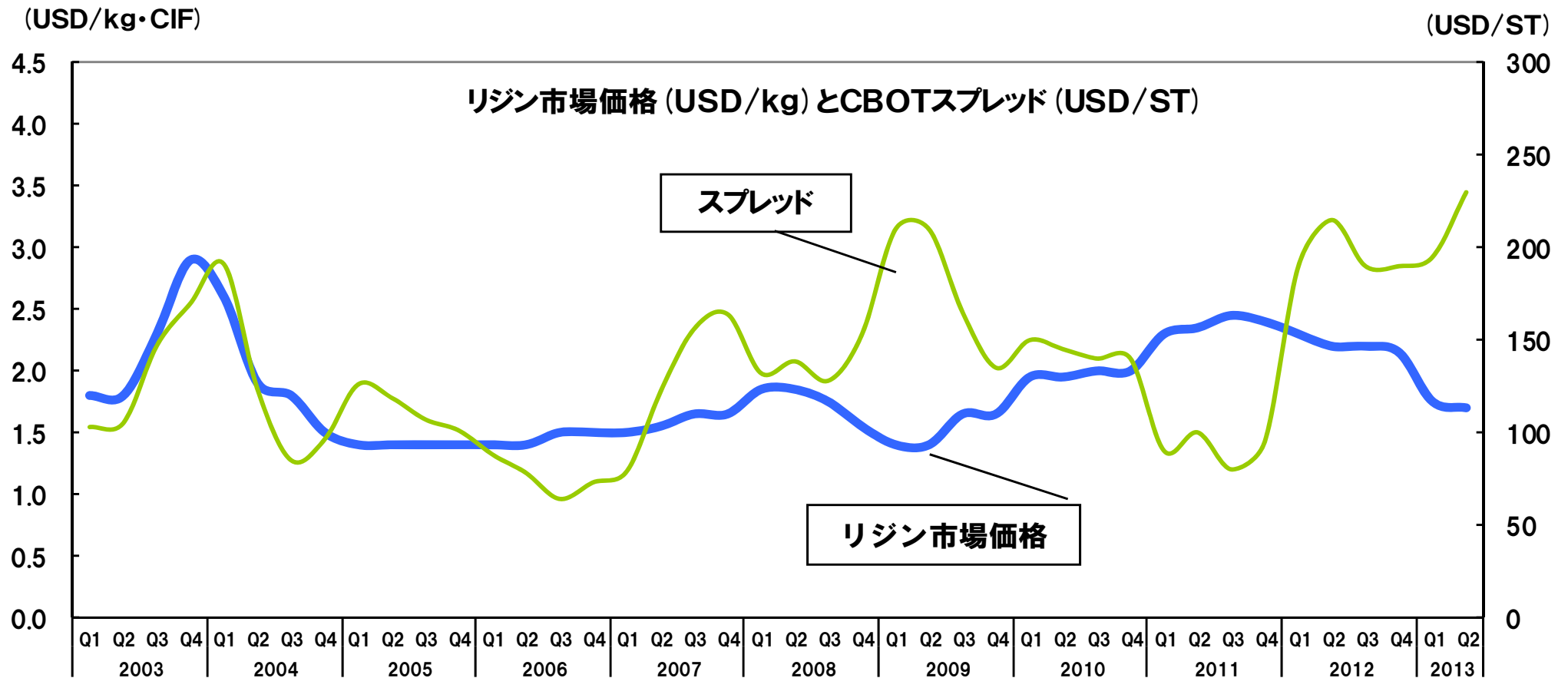
	FY2012	FY2013予**	
		1H	通期
リジン	2.15	1.70前後	1.65前後
スレオニン	2.3	2.15前後	2.10前後
トリプトファン	17	15前後	15前後
スプレッド*	190	230前後	240前後

*スプレッド (USD/ST) : シカゴ商品取引所の大豆粕とコーンの価格差

**弊社業績予想の前提価格とは一致しません

【参考】飼料用リジン市場価格、CBOTスプレッド※推移

※CBOTスプレッド＝シカゴ商品取引所の大豆粕とコーンの価格差



おいしさ、そして、いのちへ。

Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO®

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料の金額は、四捨五入で表示しております。

(別添)

2013/11/6

FY2013セグメント別業績予想

(単位:億円)	A	B	A-B	C	A-C	D	E	D-E	A-D	C-E	(A-D)-(C-E)	
	FY13 修正予想	FY13 期首予想	11/6 修正額	FY12 実績	対FY12 増減額	1H-FY13 実績	1H-FY12 実績	対1H-FY12 増減額	2H-FY13 修正予想	2H-FY12 実績	対2H-FY12 増減額	修正要因 又は 2H増減要因
国内食品												
売上高	3,405	3,385	20	3,916	▲ 511	1,612	2,212	▲ 600	1,793	1,704	89	・調味料・加工食品の下期売上高は、前年のカルピスギフト終売の影響による販売減あるも、主力品の販売増で補い増収。同営業利益は、原材料価格上昇の影響によるコストアップ等あるも、売上増加、コストダウン、前年のカルピスギフト終売に伴う販売費減等により、増益を見込む。 ・冷凍食品は円安と原材料高騰等に伴う原価率悪化影響を受け、下方修正。 【コストダウン目標】 調味料・加工食品 約11億円、冷凍食品 約7億円 【原材料価格影響】(▲:損サイド) 調味料・加工食品 約▲25億円、冷凍食品 ▲約15億円
調味料・加工食品			約10	2,174	約20	1,013	1,048	▲ 36		1,126	約55	
冷凍食品			約10	1,148	約65	599	569	30		578	約35	
飲料(「カルピス」)	0	0	0	594	▲ 594	0	594	▲ 594	0	0	0	
営業利益	276	283	▲ 7	326	▲ 50	110	173	▲ 63	166	154	13	
調味料・加工食品			約0	294	▲ 約5	119	135	▲ 16		159	約15	
冷凍食品			▲ 約10	75	▲ 約15	27	44	▲ 17		31	約0	
飲料(「カルピス」)	0	0	0	48	▲ 48	0	48	▲ 48	0	0	0	
全社共通費	▲ 76	▲ 76	0	▲ 91	15	▲ 36	▲ 55	18	▲ 39	▲ 36	▲ 3	
海外食品												
売上高	3,172	3,039	133	2,454	718	1,445	1,148	297	1,727	1,306	421	・コンシューマーフーズは、主に為替が前提レートよりも円安で推移したことにより、売上高・営業利益とも上方修正。 ・コンシューマーフーズは、下期も、為替の影響に加え、積極的なマーケティング活動、価格改定等により、増収増益を見込む。 ・加工用うま味調味料は、下期は為替の影響に加え、低資源利用発酵技術によるコストダウンの継続推進等により、対前年減益幅の縮小を見込む。
コンシューマーフーズ	2,648	2,545	103	1,993	655	1,194	931	262	1,455	1,062	393	
加工用うま味	524	494	29	461	63	252	217	34	272	244	29	
営業利益	263	231	32	207	56	129	102	26	134	105	29	
コンシューマーフーズ			19		86			45			41	
加工用うま味			13		▲ 16			▲ 12			▲ 4	
全社共通費	▲ 95	▲ 94	▲ 2	▲ 80	▲ 14	▲ 45	▲ 39	▲ 6	▲ 49	▲ 41	▲ 8	
バイオ・ファイン												
売上高	2,383	2,328	55	2,042	341	1,118	969	149	1,265	1,073	192	・飼料用アミノ酸の営業利益を上期実績および市況を勘案し下方修正。 ・アミノ酸の営業利益は製薬カスタムサービスを下方修正するも、医薬用食品用アミノ酸の好調も踏まえ、上方修正。 ・化成品は主にケミカルの為替影響を勘案し上方修正。 【飼料用アミノ酸 当社販売数量予想】()内はFY12実績 リジン 400千t前後(350千t)、スレオニン 120千t前後(95千t)、トリプトファン 4千t前後(4千t)
飼料用アミノ酸	997	1,085	▲ 89	941	56	475	452	22	522	488	34	
アミノ酸			約115	667	約205	394	301	92		366	約115	
医薬用・食品用アミノ酸				約255		約165	約125	39		約130		
製薬カスタムサービス				約185		約115	約70	46		約115		
甘味料				約230		約115	約105	8		約125		
化成品			約30	382	約70	223	193	30		189	約40	
その他			約0	52	約10	27	22	4		30	約5	
営業利益	94	192	▲ 98	144	▲ 50	39	73	▲ 33	55	71	▲ 16	
飼料用アミノ酸	30	138	▲ 108	135	▲ 105	9	63	▲ 55	21	72	▲ 50	
アミノ酸			約10	25	約35	21	19	2		6	約30	
化成品			約5	65	約25	51	35	16		30	約10	
その他			▲ 約5	▲ 24	約0	▲ 8	▲ 16	7		▲ 8	▲ 約5	
全社共通費	▲ 65	▲ 64	▲ 0	▲ 58	▲ 7	▲ 33	▲ 29	▲ 4	▲ 32	▲ 29	▲ 3	
医薬												
売上高	518	529	▲ 11	715	▲ 197	279	359	▲ 80	239	355	▲ 116	・提携販売品の苦戦を受け売上高を下方修正。 ・主に自販品の主力商品(「リーバクト」「エレンタル」「マーズレン」および「モビブレップ」)の販売強化と費用の効率化に継続して取り組む。 【コストダウン目標】 約10億円
営業利益	43	43	0	32	11	15	18	▲ 3	28	14	14	
医薬	57	57	▲ 0	51	6	23	28	▲ 5	34	23	11	
全社共通費	▲ 14	▲ 15	0	▲ 19	5	▲ 8	▲ 10	3	▲ 7	▲ 9	2	
その他												
売上高	842	909	▲ 67	724	118	417	371	46	425	353	72	修正要因 又は 2H増減要因
油脂・コーヒー			約5	22	約10	11	11	0		12	約10	
営業利益	4	1	3	3	1	2	3	▲ 1	2	0	2	
油脂・コーヒー			約0	21	約0	11	10	0		11	約0	
全社共通費	▲ 31	▲ 32	1	▲ 27	▲ 4	▲ 15	▲ 14	▲ 0	▲ 16	▲ 13	▲ 3	
総合計												
売上高	10,320	10,190	130	9,850	470	4,871	5,059	▲ 188	5,449	4,790	659	
営業利益	680	750	▲ 70	712	▲ 32	295	369	▲ 74	385	343	41	

表示上の注意: 非開示
約** 概算値

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
 ※本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
 ※本資料は、億円未満四捨五入で表示しております。